

聖書研究 第二十八課 争いを解決するための原則

争い！それは、いたるところにあります。親と子の争い。夫と妻の争い。友人間の争い。それは人生の一部です。しかし、クリスチャンは、どのように争いを扱うことになっているのでしょうか？争いが必要な時がありますか、そして、私たちがそれを避けなければならない時がありますか？この課では、争いとそれにまつわる原則について、聖書が教えていることを探究します。

1. 他の人との関係について、聖書は何と教えていますか？ ヘブル 12 : 14

2. だれに対しても、決して怒ることができないということを、それは意味しますか？
エペソ 4 : 26

注：怒りは、感情のひとつで、私たちは感情を持つ者として造られました。聖書が言っていることは、怒りは罪の中にあるのではなく、そしてそれ自体が罪ではないということです。しかし、何が罪であるかないかを決定づけるのは、あなたが怒りをもって何を行うかによるのです。

3. あなたが、他人との仲たがいを解決することは、神にとってどのように重要でしょうか？ マタイ 5 : 23, 24

4. 神は、どのように他人との不和を解決することを、私に求めておられるのでしょうか？
ルカ 17 : 3, 4

5. 他の信者が私に悪いことをする状況で、どのように対処すればいいのでしょうか？
マタイ 7 : 1-5

6. あら捜しや批判的な態度に対して、私たちはどのように対処すべきであると神は言っておられますか？ マタイ 7 : 1-5

7. 他の人がゆるしを求める時、ゆるしてあげることについて、聖書はどう教えていますか？ マタイ 6 : 14, 15 ; 18 : 21, 22

注：ゆるしているからと言って、彼らが私たちにしたことについてもう話しあうことはできないというわけではありません。しかし、彼らと問題を解決する用意がなければなりません。

8. 私たちは「敵を愛する」べきですか？ ルカ 6：27-36；ローマ 12：14-21

注：敵を愛することは、「生まれつきの」人間にとって不可能です。しかし、神の子供達にとってはそうではありません！ 私たちは、全ての点で、「彼のご性質に預かる者」であるはずで

「わたしたちが神の家族の一員であることを証明するものは、この世の地位でも生まれでも国籍でも、あるいは宗教上の恩典でもなく、それは愛—全人類を包容する愛—である。罪びとでさえ、その心が神の聖霊に対して全く閉ざされているのでなければ、親切には応じてくる。彼らは、憎まれれば憎むが愛されればまた愛することもできるのである。しかし、憎しみに対して愛で報いるのは神の聖霊だけである。感謝の気持ちのない者や悪しき者に親切を尽くし、何も当てにしないで善をなすこと—これが天の王家の紋章であり、いと高き者の子らがその高い身分を明らかにする確かなしるしである」。祝福の山 p. 92, 93

9. 他の人に対してこのような愛を、どのようにしたら持つことができるのでしょうか？

I ヨハネ 4：12, 13

注：私たちは、自分では快く他の人を愛したりゆるしたり出来ないけれども、聖霊が、自分でできないことをするための力を与えてくださいます。私たちは、この為にただイエスに求め、それは与えられたと考えなければなりません。(ルカ 11：9-13)

10. あなたは、誰か他の人のけんかの仲裁人になろうと試みるべきですか？

箴言 26：17

11. 誰かに、直接に反対して話すことが正当化される時がありますか？ ヨハネ 2：13-16

注：「キリストに従っている者たちの中にさえ、正当な憤りというものがあるのは事実である。神がけがされたり、神のご用について悪口がいわれたり、何の罪もないものが虐待されたりするのを見たり聞いたりすると、正義の憤りが魂を動かす。感じ易い道徳心から生ずるこのような怒りは罪ではない。しかし挑発と思われるようなことをされたら、怒りや恨みをほし

いままにしてもかまわないと思う人は、サタンに向かって心を開いているのである」。

II 各 希

p. 18, 19

結論：神は私たちに、お互いに平和と愛のうちに生きるように望んでおられます。この愛は、神からだけ入手できるのです。そして、求めさえすればいただけます。神は私たちが

互いに率直で正直であるように望んでおられます。私たちが争いに直面させられた時、それについて、祈って神に知恵を求めなさい。もし誰かを傷つけたなら、その人のところに行って、ゆるしを求めなければなりません。もし誰かが、私たちに害を与えたなら、その時、私たちはその人のところに行って、あらかじめ祈って、彼または彼女のために問題をはっきり説明する必要があります。

外交的手腕と気転が、非常に助けになるのを覚えて下さい。彼らに語るための何か前向きなことを考えてみなさい、そうすれば、彼らは自動的に防御の構えを取ることがなくなります。もし彼らがゆるしを求めるなら、ゆるしてあげなさい。もしそうしなければならぬのなら、彼らをゆるせるように、助けを神に求めなさい。どんな場合でも、誰か他の人のけんかに、掛かり合いになってはなりません。もし誰かが、けんかのための助言を求めるなら、彼らに適切な聖書の節を引用してあげなさい。

あなたは、ある事情で、だれかと、口論しなければならぬ時があるかもしれません。そんな時があるならば：1) 神が辱められ、2) 神のみ業が辱められ、そして3) 潔白な人は苦しみます。最後に、私たちに対する神の約束を覚えなさい。「わたしを強くして下さるかたによって、何事でもすることが出来る」。ピリピ 4 : 13

二十八課の答えとなる鍵

質問 1. すべての人と平和に生きるために、あらゆる努力をなさい。

質問 2. いいえ。

質問 3. きわめて重要です。

質問 4. もしあなたの兄弟があなたに罪を犯すなら、彼をいさめなさい。もし彼が許しを求めたら、彼を許してやりなさい。

質問 5. 最初に行って、一対一で彼に話しなさい。もし聞いてくれないなら、他のひとりふたりを、一緒に連れて行きなさい。もしまだ聞かないなら、教会に申し出なさい。それでも聞かないなら、彼は、真に体の一部ではありません。

質問 6. 私たちが他の人たちに用いる同じはかりで、私たちも裁かれます。

質問 7. 寛大に許しなさい。もし私たちが他の人たちを許さないなら、神は私たちをお許しにならないでしょう。

質問 8. はい。

質問 9. イエスと彼の愛に結ばれていることによって。

質問 10. いいえ。

質問 11. はい。